

# ほけんだより

令和6年9月  
ひとり保育所

9月に入りましたが、まだ暑い日が続いていますね。これからの夏から秋にかけてはハチが子育てをする時期にあたり、ハチの攻撃性が強くなります。林へ虫捕りに出かけたり、ハイキングをする時には気をつけましょう。

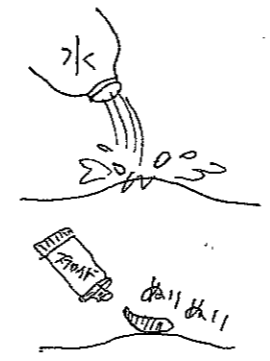
## もし、ハチが飛んでいるのを見かけたら

- あせって、手で振り払ったり、走り回ると危険です。
- ミツバチの仲間には、一たん刺すと化学物質(攻撃フェロモン)がまき散らされ周囲のハチを刺激し、集中的に攻撃します。
- 頭や首筋、顔を服で守りながら、姿勢を低くしてゆっくりその場を離れましょう。ある程度離れたら追いかけてこなくなるまで走って逃げます(約50m)
- ハチは真下にいるものを認識できないので姿勢を低くして、ハチの視野に入らないようにするとよいでしょう。



## あっ! ハチに刺された!...時は

- あわてず、騒がず、その場からそと離れます。
- 刺された部分の毒針の有無を確かめましょう。針が残るのはミツバチのみです。針が残っていたら、指ではいき緩はすように除去します。(毒針をつまむと、ハチ毒を体に注入する可能性があります)
- 患部を水で洗い流しましょう。ハチの毒は、水に溶けるので、すぐに傷口から手で毒液をしぼり出しながら、よく水で洗い流しましょう。それにより、毒を薄める他、傷口を冷やし腫れや痛みを和らげます。口では決して吸い取りません。
- 薬を塗り封。抗ヒスタミン軟膏や、ステロイド軟膏を塗り、保冷剤などで冷やします。アモニオ水や、尿をかけたも効果がないばかりか、かえって腫れがひどくなることがあるので、しないでください。

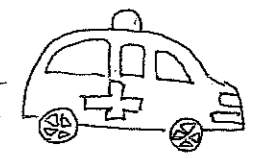


- 安静にしながら、20分程様子を見て、異常がないようならひとまず安心です。
- 受診をする場合は

- 痛みが強い時
  - 赤み・腫れが大きい時
  - 全身性の反応がある時
- です。全身性の反応の多くは、発疹ですがアナフラキシー症状を起こすことがあります。特に、2回目以降刺された場合には、起こしやすくなります。

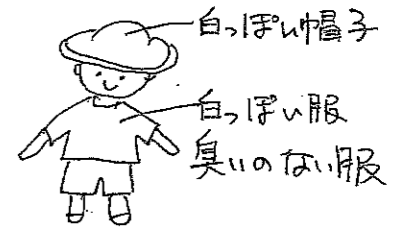
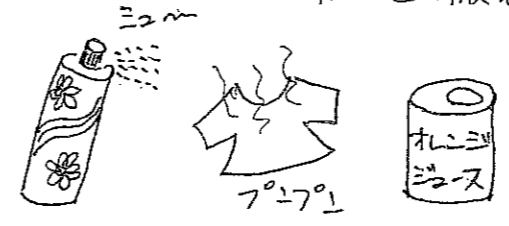


- 呼吸が苦しい
  - のどの奥の腫れ、声がかすれる、喘鳴、咳など
  - 嘔吐、腹痛、下痢や意識の消失
  - 血圧の低下
- これらのショック症状が出た時は、救急車を呼びましょう。たくさんハチに刺された時も、すぐに受診しましょう。



## どんな人がハチに刺されやすいの?

- 臭い.....人工的な甘い香り。人間が身につける強い香りの香水や、制汗剤、花の香りの洗剤、柔軟剤などがハチを興奮させる原因になることがありますので、気をつけましょう。他に、食べ物の臭い(ジュースなど)や、体臭でも反応に違いがあります。
- 色.....ミツバチ以外のハチは、色を白と黒で判断するので、ネイビーや紫といった色を避け、白に近いセピア水色などの色を身につけましょう。ただし、夜は暗やみでも認識しやすい白色は逆に目立ってしまう為、明るい色の服装は避けましょう。



ハチの死がいや、切断された胴体部分でも、毒針だけが生き残り、触ったり踏みつけたりすることで刺され、症状が出る場合があります。

ハチらしき虫を見つけたら、たとえ死んでいても近づかないようふたんに子どもたちに教えてあげてください。

